

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学専攻	分野	言語聴覚分野		
学籍番号	14S3030	院生氏名	佐藤妙子		
通学キャンパス	東京青山キャンパス				
論文題目	アルツハイマー病における発話意図の理解 — 比喩表現の理解からの検討 —				
審査結果 (枠で囲む)	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">合格</td> <td style="text-align: center; padding: 5px;">不合格</td> </tr> </table>			合格	不合格
合格	不合格				
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 研究の概要</p> <p>1) 目的: 本研究の目的はアルツハイマー病(AD)における比喩理解の特徴および重症度による変化を明らかにし、抑制機能、比喩の言語知識、推論機能との関連性を検討することである。</p> <p>2) 研究Ⅰ: ADにおける比喩の理解の検討</p> <p>①目的: ADにおける比喩の理解の特徴および抑制機能との関連を検討する。重症度による差を検討する。</p> <p>②方法: 対象はAD患者25名(軽度13名、中等度12名)および健常高齢者12名。比喩の理解課題を実施した。競合あり条件(比喩の意味と文字通りの意味が競合する)と競合なし条件(競合しない)を設定した。</p> <p>③結果・考察: 軽度群は競合あり条件の成績が低かった。中等度群は競合あり・なし条件ともに成績が低かった。軽度群の比喩理解の低下には文字通りの意味を抑制する機能の低下が関与すると考えられた。中等度群の比喩理解には文字通りの意味を抑制する機能以外の低下も関与すると考えられた。</p> <p>3) 研究Ⅱ: AD患者の比喩の理解に関与する要因の検討</p> <p>①目的: ADにおける比喩の理解に抑制機能、言語知識、語の意味関係の推論が関与するかを検討する。</p> <p>②方法: 研究Ⅰと同じ対象に、1) スループ検査、2) 言語知識課題、3) 推論課題を実施した。</p> <p>③結果・考察: スループ検査成績は軽度群、中等度群とも低かった。言語知識と推論課題の成績は中等度群のみ低かった。重回帰分析の結果、軽度群の競合あり条件の有意な説明変数はスループ検査成績であった。中等度群の競合なし条件の有意な説明変数は言語知識と推論課題の成績であった。</p> <p>4) 結論: AD患者の比喩の理解障害には、軽度の患者では文字通りの意味を抑制する機能の低下が関与していると考えられた。中等度の患者では、抑制機能の低下に加え、言語知識および語の意味関係の推論機能の低下が関与していると考えられた。</p> <p>2. 研究方法、論証、論文形式</p> <p>研究方法は倫理的に問題ない。論理性、形式とも適切である。</p> <p>3. 知見の新規性と価値</p> <p>本研究の新規性はADにおける比喩の理解に関わる要因を明らかにしたことである。認知症の臨床に貢献する研究として高く評価できる。</p> <p>4. 審査経過・口頭試問</p> <p>審査会は2回開催し、初回審査で論文審査と口頭発表を実施し、論文修正を求めたところ適切に修正された。口頭試問においては適切な応答がなされた。</p> <p>5. 合否</p> <p>以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(言語聴覚学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>					
論文審査担当者	<p style="text-align: center;">主査 阿部 晶子</p> <p style="text-align: center;">副査 鹿島 晴雄</p> <p style="text-align: center;">副査 城間 将江</p>				